

# 同志社大学

## 2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 3月 19日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	青山謙二郎
研 究 題 目	砂糖中毒を制御するための、渴望の増強に対する環境刺激と経験の効果の検討	
研 究 成 果 の 概 要	<p>砂糖の摂取を繰り返すことによって、砂糖に対して薬物と同様の「中毒」状態になるとの説があり、健康な食生活を実現するためのその検討が必要である。特に、砂糖を摂取するときに環境内に存在した刺激が砂糖と連合し、その刺激に対して条件反応として砂糖に対する渴望が生じることが問題となっており、そのメカニズムの理解が重要である。</p> <p>本年度は、砂糖の摂取を継続して行った後に、砂糖を一定期間剥奪すると、砂糖と連合した刺激に対する反応性が増強する現象（渴望の増強）について検討を行った。</p> <p>渴望の増強が生じる際に、砂糖を一定期間連続で剥奪する手続きが一般に用いられるが、一定期間断続的に剥奪した場合の効果は検討されていない。そこで本年度は、一定期間連続で剥奪する場合と同じ期間断続的に剥奪する場合で、渴望の増強の程度を比較した。その結果、断続的な剥奪でも渴望の増強が生じるが、連続的な剥奪よりも程度が弱いことが明らかになった。これらの成果は、行動分析学会などにおいて発表される予定である。</p>	